
Yourself

ブキオカ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Y o u r s e l f

【Nコード】

N 5 2 1 3 B A

【作者名】

ブキオカ

【あらすじ】

ただの高校生。無口な転校生、サナミ雨宮真実。サナミに興味がある、デミヲ出鱈目アスカ。そんな中ある日流れ始める赤い城のウワサ。それは決まっていたことなのですか？ いつの間にかわたしたちはそこへと吸い寄せられていた。

プロローグ

「罪深い…、主……けして……」

「ならぬ……贖罪……」

赤い蜜が絡み合う。壁一面に広がったその飛沫。

「夢の……覚醒……、ならぬ……、けして……生きては……」

どこからか響くこの声は、誰の耳にも届かない。

宙ぶらりんに吊られた男。

響く声……。

「終末……」

静謐なその城はうつすらと霧をまとい、その身を隠す。

そんなものを誰が見つけることができようか。

コツコツと近寄る足音に、吊られた男はピクリと体をふるわせた。

「裏切るってのは、心から信頼していた仲間からの行動をさすものでしょ。だからわたしのこれは違うわよ」

「……な……ぜ……」

「わたし、自分以外のヤツは一度たりとも信用したことないの。でもま、あんたのこと少しくらいはカワイソウって思うかな」

男の腕がカピカピと小さな音を立て、白く変質し始める。

近寄った女は躊躇いなくその腕をもぎとった。

「アツ……………！！！！……………ツツツツ……………！！！！！！！！！！」

悲鳴を上げることもできず、男はより一層苦しさに体を暴れさせる。

「アハハハハ！ もう、あんたには何も力が残っちゃいないのね」
ブシャツと液体が女の顔にかかっても、それを気にしようとする
そぶりはない。

痛みにもがく男の耳に、女は緩慢な動きでささやいた。

「いい？ あんた、もう二度とあのような真似はしないで」

「貴…様……………狂ってい……………る……………狂っ……………て……………るぞ……………！！」

「……………崇高なわたしの魂の価値が分かってないのね。
いいわ。そんなにアレと一緒になることを望むなら、わたしがお力
添えしてあげましょう」

「！！… や……………やめ……………やめる」

男の唇は白く固まり、動くことさえ痛みが伴う。

「やめるおおおおおおおおおおおおおおおおおおお！！！！」

すぐに城は静かになった。

彼女がやってきた

「アマミヤです。よろしくおねがいします」

ぼつりと呟いたその少女の隣で、その担任川原はとても困っていた。

「あの、だからね。下の名前は？」

「アマミヤです」

「だから……」

（ああもつ、この子いったい何なのよ?!）

超田舎高校にいきなり転入してきたアマミヤという名の少女。肩でバツサリと切りそろえられた髪は、墨でもぬりたくったように真っ黒。

そのせいでもとの色白がかなり目立っている。

細くて長い手足と、その容姿から美少女だといえるのだが、川原は不健康そうにみえてなんだか痛々しく感じていた。

「で、ではアマミヤさんと、みなさん仲良くしてあげてくださいね」

高校生ともなれば、すこし珍しくても転校生でいちいち沸き立つこともない。

顔を見あわせてこそこそと転校生を値踏みしているのだろう、と川原は踏んだ。

この顔立ちだからイジメられる心配はないわね、と息をつく。

「では、指定されていた席についてください」

スタスタと自分の席につく彼女はひとりセーラー服、とてもよく目立つ。

(…っていつか……あの子の名前結局なんなわけ?)

転校生の情報は前もって把握できるはずなのだが、どうもこの子の背後には何かがあるらしい。

特になにも教えられないまま、おびえる校長のもと昨日初めて知ったこの子をどうすればいいのか。

(あんのハゲ校長、あとできつく問いただしてやる……)

「校長！ あの子、一体どこからやってきたんです?」

校長室、夕暮れ時。

川原が頭をひっしにハンカチでおさえている校長を怒鳴りつけていた。

「う……日本に、住んでいたそうだよ」

「そんなことは分かってますよ！ 良く分からない子供を入学させていいとお思いですか!」

「す、すまん。だが、何も分からないというワケではないぞ」

校長は、必死に弁解を始める。

「ええと、東京出身、15歳、高校一年生、性別は女、5月3日生まれ、A B型、西東京中学校出身、家族構成は母、兄、妹……。本当の父親とは五年前に離婚しているらしい」

「それで、ファーストネームは？」

「分かん」

「なんでだよ！！」

駄目だ、なんで家族構成とか知っているのに下の名前が分からないのか。

そもそもなんで名乗ろうとしないんだろっ？

本人に直接聞けばいいだけの話だし、別に構わないのだけどなんかひっかかる。

もう一度教室をのぞいてみよう。

九州に転校してきて、緊張していないハズがない。それを担任の私がフォローしてあげないと。

川原は今まで9年教師をやってきていたが、転校生というのは実は初めてだった。

そんなこんなで新任教師なみに気合がはいっているのだ。

夕日が赤く燃やす教室へと足をむけた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5213ba/>

Yourself

2012年1月14日14時01分発行